

# AKAYA PROJECT

赤谷プロジェクト地域協議会 / (財)日本自然保護協会 / 赤谷森林ふれあい推進センター

## 赤谷の森だより

2014.03.15

vol. 25

トピックス ・(財)日本自然保護協会 保全研究部 部長 朱宮 丈晴  
・赤谷の森学校開校しました!



春一番に咲く!  
マルバマンサク

「森の地面で暮らす  
飛べない昆虫類たち」

赤谷の森でわかったこと

宇津井環境調査事務所 宇津井 守

赤谷の森三二写真館!

今回のテーマ 「赤谷の森に春が来た!」

撮影者: 青木邦夫 (赤谷プロジェクトサポーター)



おいづまた  
小出侯林道入口から3km付近にある

「カツラの大木」



雪どけと同時に出てくる山菜

「フキノトウ」



越冬に成功し、日だまりで羽を温めている

「クジャクチョウ」

# 赤谷の森でわかったこと

森の地面で暮らす

## 飛べない昆虫類たち



宇津井環境調査事務所  
宇津井 マモル 守

赤谷プロジェクトでは、自然林を復元するための試験地で、環境を指標する生き物として「地表徘徊性昆虫類」の調査を人工林伐採前の2011年と、伐採後の2012年に行いました。

地表徘徊性昆虫類とは、秋に鳴くコオロギや、地上で餌を探すアリなど地表で生活する様々な昆虫類を指しますが、森内で最も目につくのはオサムシやゴミム

シといわれるコウチュウ類です(写真1、2)。

オサムシもゴミムシも分類上ではオサムシ科に属する昆虫類です。多くは夜行性で飛ぶことができない分、素早く歩くのが得意なため、動きの遅い小昆虫等を捕食します。飛んで長距離を移動することが苦手なことから、環境ごとに異なる種が見られ、環境指標性の高いグループです。

ここに赤谷の森での2か年の調査結果を示します(図1、2)。

種数、個体数共に、人工林よりも自然林のほうが豊かな結果となりました。地表徘徊性昆虫類にとっては、自然林のほうが住み心地の良い環境のようです。

また、人工林伐採後は種数、個体数共に減少しましたが、今後、樹林が回復して地表徘徊性昆虫類の住み心地の良い自然林に近づいてゆくと考えられます。時間はかかるかもしれませんが、非常に楽しみです。

また、人工林伐採後は種数、個体数共に減少しましたが、今後、樹林が回復して地表徘徊性昆虫類の住み心地の良い自然林に近づいてゆくと考えられます。時間はかかるかもしれませんが、非常に楽しみです。

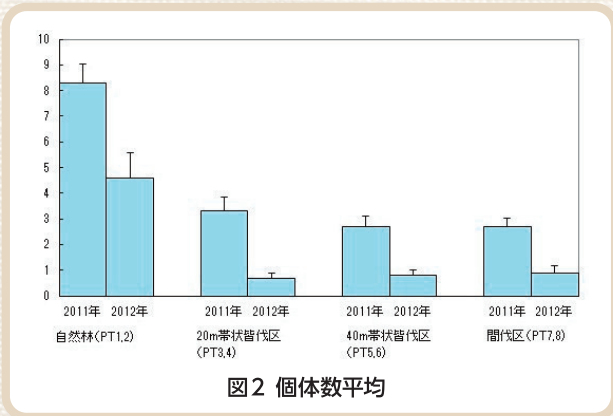
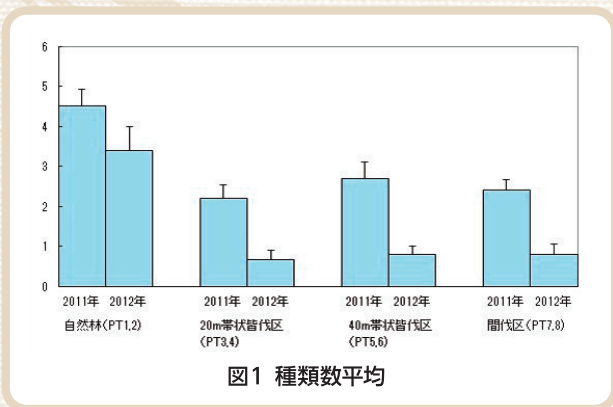


写真1

エサキオサムシ



写真2

ベーツナゴゴミムシ

### 宇津井氏プロフィール

幼少のころより生き物好きで、特にチョウとオサムシの採集と収集は小学生のころから熱中し、その趣味が高じて環境調査会社へ。2002年に宇津井環境調査事務所を立ちあげ自営業者として昆虫類の調査、分析をしている。1973年千葉県出身。

# トピックス

## 赤谷プロジェクト 期待する理由

(財)日本自然保護協会  
保全研究部 部長  
シユミヤ タケハル  
**朱宮 文晴**



日本自然保護協会(NACSJ)が進める赤谷プロジェクトと綾の照葉樹林プロジェクトという地域協働型の取り組みを統括する立場で昨年9月から赤谷プロジェクトを担当させていただくことになりました朱宮と申します。

NACSJで仕事をするようになって10年になりますが、赤谷プロジェクトが開始された翌年から始まった綾の照葉樹林プロジェクトを準備段階から担当していました。また、生物多様性に配慮した地域づくりを進めていく観点から生物多様性地域戦略策定支援、ユネスコエコパーク、人と自然とのふれあい調査などにも取り組んでいます。赤谷プロジェクトのような地域の市民を巻き込む生物多様性保全の取り組みはもっと他の地域で活用されてよいと思います。林野庁との協働管理や治山ダム中央部撤去、イヌワシの狩り場創出など先進的な取り組みを行っており、赤谷プロジェクトで培われた経験をいろいろな形で他の地域に普及していくお手伝いできればと考えています。

## 赤谷の森学校 開校しました!

カワバタ ヨリヒト  
赤谷の森学校 代表 **川端 自**

〈窓口〉長浜陽介 090-3105-1300 <http://www.jugemusha.com/akayamori/>



学生証▶

「赤谷の森学校」の学生証を見たら温かい声を掛けてあげてください。人との交流が故郷度を一番アップするのだと思います。

春、夏、秋、冬と四季に応じたスクールを開催する予定です。赤谷の森を故郷と思ってくれる子供たちが成長すると、今度はその子供たちを連れてまた赤谷の森に遊びに来てくれます。こうして「赤谷の森ファン」を増やしたいと思っています。最後に地域のみなさまへお願いです。まずはプログラムに飛び入りで遊びにきてください。大歓迎です。そして、赤谷の森学校の「学生証」を見たら温かい声を掛けてあげてください。人との交流が故郷度を一番アップするのだと思います。

最近、新治地区に都会から大勢の子供たちが遊びに来ているのをご存じですか。この写真は平成26年2月22日〜23日に猿ヶ京の民宿ふじやさんにお世話になりながら、雪の中で元気に遊ぶ子供たちです。昨年11月にも民宿はしばさんに泊まって秋の赤谷の森で遊びました。これらは赤谷プロジェクトのサポーターと地域協議会の有志で、昨年からは始めた「赤谷の森学校」の活動です。都会で子育てをする家族を対象に、第二の故郷として新治地区に帰郷する感覚で遊びに来られるエコツアーを考えています。都会の子育て家族にとつての田舎とは、祖父母が生活する土地で、同じような都会であるケースが多くなっています。そこには子供たちが走り回る林や原っぱも、生きものと遊ぶ小川もありません。新治地区にはたくさんあります。「赤谷の森に遊びにおいで」と案内すると大勢の家族が遊びにきてくれました。



### 赤谷プロジェクトに関する イベント予定

イベント名	実施日	主催
赤谷の日 (いきもの村外)	4/5(土)	ホスト: 地域協議会
赤谷プロジェクト活動報告会 (新治農村環境改善センター)	5/11(日)	赤谷プロジェクト

※イベントの詳細等は、準備ができれば赤谷森林ふれあい推進センターHPに掲載致します。

### お知らせ

●平成25年度 赤谷プロジェクト地域協議会総会開催されました。

- 会長 河合 進
- 代表幹事(事務局長兼任) 林 泉

役員体制は変わりませんが、引き続きよろしく願い致します。



色々な活動をしているよ!

# 赤谷プロジェクトの活動

# トピックス



H25.11.21

林野庁森林技術総合研修所「平成25年度生物多様性保全研修」地方公共団体及び森林管理局担当職員等へ赤谷プロジェクトの取組みを紹介しました。



H25.11.24

2013秋さるしょうの乱委員会主催による「さるしょうの乱」に参加し、akayaカフェ〜森から考えよう〜のフィールドワークを担当しました。



H25.11.28

新治小学校6年生「秋の遠足事後学習」を行いました。遠足時に設置したセンサーカメラの撮影結果と地域に生息する動物等について学習しました。



H25.12.1

「第18回ごったくまつり・ボランティアフェスタめま」に参加し、ネイチャークラフト体験を行いました。かわいいヒノキの球果を使ったストラップづくりです。



H25.12.6

JICAラオス研修 ラオス人民民主共和国からの研修生を対象に生物多様性の復元と持続的な地域づくりの取組を学んでいただきました。



H25.12.7

第3回akayaカフェ〜肉を食べる大きな鳥〜「三国路と謝野晶子紀行文学館・椿山房」において開催しました。話題提供：山崎亨（アジア猛禽類ネットワーク会長）



H26.2.8

第3回赤谷の森自然散策 スノーシューによる散策のあと、民話と紙芝居の館にて、猿ヶ京温泉に古くから伝わるお話や紙芝居鑑賞! 散策した風景が、懐かしいひと時となりました。



H26.2.12

平成25年度関東森林管理局森林・林業技術等交流発表会「赤谷プロジェクトにおける市民参加のモニタリング調査(ホンデテンを指標種とした森林環境調査)」を発表しました。



H26.3.9

赤谷プロジェクト10周年シンポジウム(東京農工大学講堂)「自然をいかした地域づくりの展望 / 赤谷プロジェクト次の10年」をテーマにパネルディスカッションを行いました。

## 赤谷プロジェクト、って?

赤谷プロジェクトは、人と自然の共生と持続可能な地域づくりをめざして活動しています。地域、自然保護団体、国有林管理者という立場の異なる三者が共に活動するという、全国的にもめずらしい取り組みです。

活動地域は、群馬県みなかみ町北部、新潟県との県境に広がる約1万 ha (10km四方) の国有林。ほぼ中央に赤谷川が流れることから「赤谷の森」と呼んでいます。

植物や生きものの調査・研究、環境教育、研修の受け入れなど、活動はさまざま。毎月第一土曜日に行われる「赤谷の日」には、県内外のサポーターが調査や体験学習などを行っています。どなたでも参加できますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

※トピックスの詳細は

赤谷森林ふれあい推進センター

検索



## 赤谷プロジェクトサポーター募集! (たくさん笑顔がまっます(^^)/)



赤谷プロジェクトは、一緒に活動に加わっていただけるサポーターを募集しています。活動の中で研修の機会を豊富に用意しているため、自然や野外活動の知識や経験がないと心配される方も、学びつつ活動に参加できます。

■お問合せ先

日本自然保護協会：出島・藤田

赤谷プロジェクト地域協議会

TEL 0278-66-0888

代表幹事 林 泉

メールアドレス kawafuru0888@gmail.com

(財) 日本自然保護協会

TEL 03-3553-4107

プロジェクト担当 出島 誠一

http://www.nacsj.or.jp/akaya/index.html  
メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

林野庁関東森林管理局  
赤谷森林ふれあい推進センター

TEL 0278-60-1272

所長 藤澤 将志

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya\_fc/index.html  
メールアドレス akaya\_postmaster@rinya.maff.go.jp